

令和2年度(2020年度)熊本市生物多様性推進会議

議事録

日時:令和3年(2021年)3月24日(水)15:00~17:15

Web会議

1 開会

2 議事

(1)熊本市生物多様性推進会議要綱の改正について

【事務局(環境共生課) 北村】

資料1に基づき説明

【内野委員】

改正によりWeb、書面会議の公開(傍聴人・マスコミ)はどう対応するか。

【事務局(環境共生課) 北村】

通常は対面会議の場合は公開している。今回は新型コロナの影響でWeb会議としたため、傍聴人、報道関係の参加は見送り、委員のみの参加とした。

【内野委員】

傍聴人がいる理由で対面会議のケースもある。

【甲斐原委員】

昨日参加した会議は広めの会議室で開催され報道も入っていた。この会議も公開の対策を検討すべき。

【事務局(環境共生課) 吉田課長】

今回は部屋の規模等の関係で、委員以外の大人数が参加することで密になるのを懸念した。傍聴人、報道等が入る必要があるので今後さらに工夫したい。

(2) 次期熊本市生物多様性地域戦略について

【事務局(環境共生課) 北村】

資料2に基づき説明

【甲斐原委員】

- 1) 新型コロナの影響でどう国家戦略改定作業が遅れたか。
- 2) 市の改定は2021~2022年度はどう進めるか。

【事務局(環境共生課) 北村】

1) について

生物多様性条約締約国会議(COP)で世界の戦略、目標枠組みが決まる。Web会議で議論は進行しているが、次に中国(昆明)で開催予定の COP15 が延期となっている。

2) について

2021-2022 は現戦略を延長継続。2022 年度に改定作業を予定。

【仮屋崎委員】

国の戦略改定スケジュールは資料のとおりで確定なのか。前倒し等はあるのか。

【事務局(環境共生課) 北村】

新型コロナウイルスの状況次第。

COP15 においてポスト 2020 生物多様性枠組みが採択後、すぐに策定する方針だが、現時点での国際的な検討状況の遅れを踏まえると、2021 年度末に改定の見込みと聞いている。

【仮屋崎委員】

市の戦略改定スケジュール変更はあるか。

【事務局(環境共生課) 北村】

市も国の状況により影響を受ける可能性がある。

【熊本県自然保護課 川崎】

県生物多様性戦略も今年度未完了の予定だった。同様に遅れており2年間スケジュール延長し、2022 年度策定、2023年度施行予定。熊本県は現戦略の変更をする。市は戦略の変更手続きや公表はどうするのか。

【事務局(環境共生課) 北村】

内容変更はなく期間だけを延長するもの。その説明がHP等に必要と考えている。

【佐山委員】

SDGs14(海の豊かさを守ろう)、SDGs15(陸の豊かさを守ろう)との連携はどうなるか。

【事務局(環境共生課) 北村】

SDGsについて熊本市環境局では環境政策課が主となり取組を行っているが、各部署の様々な計画にも盛り込まれている。

当課においても、次期生物多様性戦略にSDGsの要素を盛り込んでいく予定。

(3) 令和2年度(2020年度)熊本市生物多様性関連事業実施状況について

【事務局(環境共生課) 北村】

資料3-1、参考資料1に基づき説明

a. 基本戦略1～知る～について

【甲斐原委員】

動植物園の資料館も整備され、生物多様性について今以上に情報発信されることを期待する。

【事務局(環境共生課) 北村】

動植物園は情報発信するのにとってつけの場所なので、今後も有効に活用していく。

【内野委員】

動植物園の整備は生物多様性を考慮し進んでいるのか。

【石黒委員】

展示の仕方を検討してほしい。

例えば、動物と植物を連携して展示。熊本市(特に江津湖)の植物の展示。

資料館の呼び方等。

動植物園に学芸員を配置すべき。

【永野委員】

アライグマは増えているが今後の駆除対策はどうするか。

【事務局(環境共生課) 小池】

現在は生息状況確認後に箱罾を設置している。来年度は確認なく箱罾設置。熊本連携都市圏の事業を活用し玉東町、宇城市、宇土市でアライグマ生息状況調査を行う。

【毛利委員】

アライグマの確認数 38 件は県の件数か。また、捕獲したアライグマはどうなったか。

【事務局(環境共生課) 小池】

市の確認数。捕獲したアライグマは解剖し胃内容物を調査した。

【毛利委員】

アライグマは北区に多いのか。

【事務局(環境共生課) 小池】

市は北区、西区で多い。県は玉東町、山鹿市で多く捕獲されている。

【毛利委員】

今後は多く生息する要因を調べたがよい。

【石黒委員】

農業被害等待たず積極的に駆除対策を進めたほうがよい。

【仮屋崎委員】

生態系、生物多様性との関連など積極的に対策を進めたほうがよい。

【甲斐原委員】

環境省生物多様センターが作成しているモニタリングマニュアルを利用してさらに市民レベルの調査を拡大。その後、調査方法、内容を県で共有してはどうか。

【事務局(環境共生課) 北村】

モニタリング調査について、来年度はカエル、ホタル、タンポポ類の3種を追加して調査予定。市民への広報のやり方、対象地の拡大等も進め、より専門的な調査にしていきたい。

【仮屋崎委員】

県内の活動団体と連携を進めるとよい。

【内野委員】

プラットフォームをつくったが参加団体がなかなか増えていない。

【事務局(環境共生課) 北村】

本年度、1 団体(熊本県シェアリングネイチャー協会)の加入があった。来年度、もう1団体加入予定。来年度以降は高校等も含めて加入してもらおうよう営業にも力を入れる。

【甲斐原委員】

動植物園全体で生物・歴史・文化すべての生物多様性の情報を発信できるよう整備を進めては。活動内容が具体化されると活動の指針となる。

【仮屋崎委員】

熊本博物館にさらに充実した生物多様性に関する企画・展示を検討してみてもは。

b. 基本戦略2～学び、つながる～について

【内野委員】

都市緑化フェアの基本構想に生物多様性の視点は盛り込まれているか。
職員向けの研修は進んでいるのか。今後も研修を進めるべき。

【大住委員】

学校の先生向けに副読本の講習会や活用法を提案してはどうか。

【内野委員】

副読本「いきものさがし」の作成部署はどこか。配布後の活用状況を知りたい。

【事務局(環境共生課) 小池】

環境共生課で令和元年度に作成し、市内の小学4年生に配布。アンケート結果は活用できたが半数、できてないが半数だった。今後は出前講座や理科の授業で使っていきたいと回答いただいた。市HPでのデジタル版の公開を予定している。

【内野委員】

副読本は教育委員会を通し学校に配布し教育委員会と連携していくよう進めるとよい。

【永野委員】

緑の検定本はあるのか。学校の図書室に副読本、水検定本等を置いて夏休みの自由研究に活用してもらおう。教育委員会との連携を進めてはどうか。

【内野委員】

教育委員会との連携により子供たちへより浸透するのではないか。

【甲斐原委員】

プラットフォームが広がっていくことが大切になっていく。庁内他部署にプラットフォームを共有して広げていくといいのでは。

c. 基本戦略3～守る～について

【仮屋崎委員】

絶滅危惧種保全は生育地と域外保全の両方が必要。担当者の知識と熱意が重要。博物館屋外や動植物園を利用してはどうか。学芸員の役割も重要。

【仮屋崎委員】

絶滅危惧種キタミソウは西日本では熊本市のみ生息。高さ 5cm 程度で日当たりがいい場所でないと生育が困難。水位が下がり裸地が出現した時に発芽・開花、3～4 ヶ月で枯れる。近年、水位の変動がないのは下流にあたる加勢川野田堰の開閉が関係していると推測している。このまま江津湖の水位が下がらなければ絶滅に近づくため対策が必要。

ヒラモは世界で熊本市周辺のみ分布。近年増加しつつある、外来種コウガイセキショウモにかなり競合圧迫されている。

【石黒委員】

動植物園でトサシミズサンショウウオの域外保全をしている。

【仮屋崎委員】

保存に関する詳しい知識を共有・継承していくことが大切。

【永井委員】

川や海洋のマイクロプラスチック問題。清掃活動などに参加し、汗を流すことが生物多様性の認識が深まる。清掃への参加呼びかけに力を入れ欲しい。

d. 基本戦略4～創る～について

【仮屋崎委員】

拠点(立田山・木原山・金峰山・白川)等の緑と、民家の庭木、京町台地の斜面の緑がつながり、市街地に緑の回廊ができると理想的。

宅地開発による緑の損失、モウソウチクの繁茂対策を行い、できるだけ緑を残す取組が必要。

【内野委員】

竹林の浸食、緑の回廊を伝って市街地が有害鳥獣(カラス、ムクドリ)に脅かされる新たな問題がある。

【永野委員】

江津湖(野鳥の森)の木が伐採されて宅地になり、ホタルや湧水がなくなっている。江津湖周辺の自然や緑化を守る市の条例の整備・見直しが必要なのでは。風致地区条例の緑化率 20%以上は 50 年前に制定されたもので、他自治体と比較しても低い状態。

【事務局(環境共生課) 吉田課長】

風致条例は水前寺江津湖含め 7 地区に係っているため、すぐに変更・検討は難しい。事務局としては今後、地権者への緑化への協力依頼を含めて、江津湖周辺の環境保全活動を進める。

【北岡委員】

生垣植栽補助交付時に近隣への配慮などの指導が必要。

【事務局(環境共生課) 北村】

生垣補助交付時は現地を確認し管理の指導を行っているが今後も徹底する。

e. 基本戦略5～活かす～について

【内野委員】

まち歩きマップは北区や中央区も作成しては。

3 その他

【事務局(環境共生課) 田尻課長補佐】

(1) 委員交代について

資料4に基づき説明

4 閉会

《意見様式》(会議の前後に書面でいただいた質問・意見)

【佐山委員】

外来種の情報収集に関する連絡体制(連絡網)はどうなっているのか。

【事務局(環境共生課) 北村】

市民からの通報で情報が寄せられた場合は、現地確認後に熊本博物館等に同定依頼する。同定の結果、外来種だった場合は所管課(各区土木センター、生活衛生課 etc)に連絡し、駆除等の対応依頼を行う。

ヒアリについては国内で発見された場合は環境省からメールで報道発表内容が送られてくる。

アライグマについては熊本県を筆頭に、県内の自治体及び専門家で構成されたプラットフォーム(アライグマネット)を活用して、情報共有を行っている。

外来種に限らないが、生物多様性に関する事業については全国の生物多様性所管課(185 自治体)で構成された「生物多様性自治体ネットワーク」でも情報共有を行っている。

【佐山委員】

マイクロプラスチック、海洋プラスチックの問題への対応は考えているのか。

【事務局(環境共生課) 北村】

世界情勢をみてもマクロプラスチックの問題は重要だと考えている。熊本市でも廃棄物計画課等で取組を始めている。次期生物多様性戦略にはマイクロプラスチック、海洋プラスチック、SDGs、気候変動などの要素は含まれてくる可能性が高いため、次期戦略の改定委員会を立ち上げる際には、そういった視点をもった幅広い委員の選考を予定している。

【佐山委員】

- ・新規造林や緑地創出については、草木の種類や由来を十分に考慮する必要がある(在来樹種・系統の利用など)。
- ・イノシシが生物多様性に及ぼす影響(放置竹林がイノシシ増加に寄与)が今後問題になる。
- ・セミ調査については、年次変動もあるので、調査の継続が望ましい。また、情報の公開については、同様な調査を行っている他の自治体のHPなども参考になる。
- ・知識よりも体験の機会を増やすことが理解につながる。
- ・緑地のほかに、枯木や朽木などが生き物(昆虫など)の生息・生育地として重要。老樹や大木が枯れても除去するのではなく、安全な形で現地にとどめることなども検討してほしい。

以上